

会 議 録 (要旨)

				記録者 中村 将大	
供 覧	部 長	課 長	課長補佐	主査・係長	グループ員
件 名	令和3年度第2回龍ヶ崎市市民協働推進委員会				
日 時	令和3年8月4日(水) 午後2時～午後4時45分				
場 所	龍ヶ崎市役所 本庁舎 5階 全員協議会室				
主 催 者	龍ヶ崎市市民協働推進委員会				
出 席 者	[龍ヶ崎市市民協働推進委員会委員] (10名出席) 根橋 正一 委員長, 佐藤 真智子 副委員長 加藤 洋平 委員, 深澤 幸子 委員(採点後退席) 松田 百合子 委員, 馬場 英夫 委員 松原 卓朗 委員, 小林 克己 委員 長江 敦子 委員, 大西 秀夫 委員  [龍ヶ崎機関車推進協議会] 小山 英雄 会長, 北川 滋也 氏  [事務局] 坪井 龍夫 部長, 川崎 幸生 課長 関口 容子 課長補佐, 記録者				
欠 席 者	0人				
傍聴人の数	1人				
会議の内容	議 題 (1) 担当課・提案団体を交えた委員間での意見交換 (2) 事業化審査のための採点				
情報公開	公 開	非公開(一部非公開を含む)とする理由		龍ヶ崎市附属機関の会議の公開に関する条例第5条第3号該当	
	部分公開	公開が可能となる時期(可能な範囲で記入)		年 月 日	
	非 公 開				

	発言の内容（要旨）
根橋委員長	<p>ただいまから、令和3年度第2回龍ヶ崎市市民協働推進委員会を開催いたします。本日は10名の委員の皆様のご出席をいただいております、過半数に達しておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>はじめに会議録の作成にあたり、会議録署名人2名の指名をさせていただきます。今回は、大西委員、松田委員にお願いします。</p> <p>お二人には、本日の会議録ができましたら、内容の確認をしていただき、会議録に署名をお願いします。</p> <p>なお、これから担当課・申請団体を交えた委員間での意見交換後に提案事業の審査を行います。団体に対する不利益な意見が含まれる可能性もあることから、この審査のみ、非公開とさせていただきます。あらかじめご了承ください。</p> <p>まず、議題に入る前に事務局より説明があります。事務局よりお願いします。</p>
	—事務局説明—
根橋委員長	今の事務局の説明を受けて提案団体より説明があります。提案団体の方よりお願いします。
	—提案団体説明—
根橋委員長	そのほか、事務局から何かございますか。
	—事務局説明—
根橋委員長	<p>それでは、議題に入ります。本日の最初の議題は、今年度提案いただいた事業に対する担当課・提案団体を交えた委員間での意見交換です。</p> <p>それでは、各委員における理解を深めるために、ご意見等がありましたらお願いします。</p>
深澤委員	道路上には竹灯籠を出さず、2会場のみでの設置とするのか。また、出店者の増加とあるがどのような意味か。
龍ヶ崎機関車推進協議会	2会場のみでの実施予定です。道路上に出す予定だった分を石蔵館に集約してやる予定だ。出店者の増加については、竹灯籠を見に来た人の中で商店街にお店を出そうという人が少しでもいたら良いと思う。
深澤委員	商店街を盛り上げるために、ニュータウン地域の人をどのようにして巻き込んでいこうと考えているのか。
龍ヶ崎機関車推進協議会	竹灯籠の作成にボランティアとして参加してもらうことで巻き込んでいきたいと考えている。
深澤委員	商店主の人たちの中で、一緒に竹灯籠祭りを盛り上げてくれるような人はいるか。
龍ヶ崎機関車推進協議会	米町商店会、商工会議所の会長とは既にお話をしたが、前向きに捉えてくれている。どんどん輪を広げていきたい。
松原委員	今回の提案は、再来年の2月に実施予定であるので、時間的に余裕がまだある。調整事項はまだあるが、今後少しずつ調整していく。来年の2月に自分たちだけで実施予定である。それについて説明してください。
龍ヶ崎機関車推進協議会	筑波銀行跡地を利用して、米町の商店街の人たちも巻き込んで実施する予定だ。一昨年に石蔵館でやったので、そこでの失敗を活かして実施していく。
小林委員	実施する地域の方々を実施主体として巻き込んでいくことが大事。ボランティアの人数について、それなりの数を想定していると思うが、どのような方法で募集するのかお聞かせください。

龍ヶ崎機関車推進協議会	今回は大学と高校に募集をかけていき、人を集めたいと思っている。また、以前石蔵館で実施したときに、竹灯籠製作ボランティアを50名確保している。
馬場委員	この企画は多くの団体を巻き込んでいくことが必要。2か所のみの実施で果たして商店街が盛り上がると思えない。当初の計画が甘かったのではないかな。また、たつのこやまで竹灯籠を実施してはいかがか。
龍ヶ崎機関車推進協議会	たつのこやまでの実施も検討したが、今回の目的は商店街を盛り上げたいということなので、商店街で実施したいと思う。
馬場委員	商店街にお店そのものが減ってきているので、どの程度協力が得られるかが心配。
龍ヶ崎機関車推進協議会	それはやってみないことにはわからない。来年2月にやることを踏まえて実施していく。
根橋委員長	市の役割として各種団体へ働きかけを行うとあるが、商店主の方々の役割をどのように位置づけるのか。また、どのように取り込んでいくのか。
龍ヶ崎機関車推進協議会	各商店街や商工会議所との調整の中で、役割分担を決めていく。2年前に実施したときは、商店主の方々も含め想定以上の人が見に来てくれた。このお祭りに対する期待値はある。
根橋委員長	期待値ということではなく、商店主の方にもこの企画の中心的な役割を担ってもらった方が良いのではないかと意見です。
松田委員	竹灯籠を作るだけではなく、移住者を増やすということも先の目標としているのであれば、実行委員会を作って商店主にも主体的に参加してもらう必要がある。
龍ヶ崎機関車推進協議会	市に対して興味を持てば、移住者も増える。龍ヶ崎市はPRが下手。新宿に段ボールSLを展示したが、誰も龍ヶ崎市を知らなかった。
松田委員	一緒にPRをしようよということで、実行委員会を作っていくべき。楽しかったで終わらせないで、責任をもって展開していくべき。
龍ヶ崎機関車推進協議会	市民協働推進委員会も含めて、皆で作りに上げていくことが協働事業だと思う。
松田委員	計画も初めから大きいものでやるのではなく、徐々に大きくしていけば良いと思う。その中で行政もどのようにPRしていくか考えていけばよい。
佐藤副委員長	地元の人がどれだけ力が残っているのか疑問。
龍ヶ崎機関車推進協議会	実際に実行していけば問題は解決していくと思っている。
加藤委員	計画に不確実な部分がある。団体でできる範囲で実施していったら、成功体験を積み重ねていくことが大事。
長江委員	この企画の目的を人とのつながりを増やすということにしてはどうか。また、日本では人口減少は避けられず、龍ヶ崎市でも20年後の人口が5万人台になるという統計が出ている。人口が減少していく中で、商店街も衰退していくのは自然の流れだと思うので、それほど問題なのか。
龍ヶ崎機関車推進協議会	人口減少していく流れを変えたいと思っている。龍ヶ崎市ではアートでのまちづくりが必要。
根橋委員長	この市が減びかかっているのはアートがないからだという提案をいただきました。ただ、今我々はこの事業の実行の可能性を考えていかななくてはならない。
松原委員	過去の実績も踏まえて判断してほしい。
事務局	今回費用等についても変更がありましたが、費用面についてご意見ご質問等ございませんか。
松田委員	竹の処分代がなくなった理由を教えてください。

龍ヶ崎機関車推進協議会	竹の処理については、竹炭にすることで考えているので不要となった。
根橋委員長	プロジェクターのレンタル代が大きな割合を占めているが、龍の物語を流すことと、どのような関わりがあるのか。
龍ヶ崎機関車推進協議会	前回実施した際に若い人から好評だったため、龍の物語を広めていきたいと考えている。そのため照度の高いプロジェクターをレンタルしたい。実施期間は2日間であるが、事前にテストするため3日間レンタルすることで考えている。
根橋委員長	それでは、意見も出尽くしたようですので、この後採点に入ります。提案団体の方、提案団体の会員である松原委員、傍聴者の方は退出ください。
	—提案団体・松原委員・傍聴者— 退出
	<審査は龍ヶ崎市附属機関の会議の公開に関する条例第5条第3号に基づき非公開>
根橋委員長	審査が終わりましたので、松原委員に再度出席いただきます。
	—松原委員入室—
根橋委員長	次に、その他でございます。前回の委員会で委員からご提案がありました協働事業提案制度に関する委員間での意見交換を行いたいと思います。時間は30分といたします。何かご意見ありますでしょうか。
長江委員	市として協働事業は、結果に重きを置くのか、事業の過程に重きを置くのか、それとも両方なのか、どうなのでしょう。
事務局	過程も大事ではあるが、市としては結果を重要視している。
松原委員	以前に市民協働推進委員会の有志で協働事業に対して調査研究を行いまとめたものがある。その中で市職員に対してアンケートを取ったものがある。協働事業を経験した職員は同事業について必要だと思っている人が多いようだが、経験したことがない職員については不要だと思っている職員が多い。協働の意義を理解していない職員が多いと思うので、勉強会をやったらいいと思う。 協働の意味を理解している方が、協働コーディネーターなども含めて制度を考えてもらった方が良く思う。
事務局	今の話を聞いていて、協働事業は提案ありきであるので提案団体と担当課がかみ合わない部分もあるのかなと思いました。特に、市民提案型協働事業については、市民側がやりたいことを提案するので、担当課としては新規事業が1つ増えることになる。市側も実情として既存の業務をこなすことが精いっぱい、新規事業を受け入れるだけの余裕がないです。 柏市では、近年協働事業の見直しを行ったということで、昨年市民活動センターの職員と現状を聞きに行きました。その際に柏市でも、提案があがってきた後の担当課探しに苦労しているということを話していました。どこの市町村も現状は同じだなと思いました。 事前に提案団体と担当課で地域課題について共通認識がないまま、提案があがってしまうので、そういう意味では合意形成がうまくなされないまま、事業が進んでいってしまうのかなと思います。
馬場委員	市民協働推進委員会として提案事業の審査のみであれば、委員会形式をとらずに内部の会議のみで決めてしまっても良いのではないかと。また、協働事業は行政と市民団体だけでなく、企業も含めた3者間での協働事業なども提案としてあがってきてしかるべきだと思います。

加藤委員	<p>協働事業提案制度は2000年代に全国の自治体で流行して、その中で龍ヶ崎市でも始めたと思いますが、今は廃止や縮小の傾向が強いです。自分で調べた限りでは、団体との調整に時間がかかりすぎることや行政側の負担が増えることによってモチベーションが上がらないことという状況です。龍ヶ崎市でこのまま協働事業提案制度を進めていてもいい方向には進まないと思います。協働コーディネーターというご意見もありましたが、人選が非常に難しいと思います。協働事業提案制度を廃止や見直しすることも含めて、この委員会で検討していくことが良いと思います。</p>
長江委員	<p>協働について積極的に取り組んでいるのが、横浜市や川崎市である。横浜市はプロポーザルで外部の会社を入れて、本気で地域課題について解決しようとしているみたいです。</p> <p>川崎市は、空き地等を利用して気軽に市民が交流することでリノベーションを起こすというような取り組みをしています。そういう意味では協働が変わってきているのかなと思います。アンケート調査の中で市民団体側はすぐに資金がほしいという意見がありました。すぐにお金を出すという意味では基金を作るのいいのではないかなと思いました。企業からの寄付や市民からの募金で基金を作って、事業化されないような市民活動を支援するのも良いかなと思いました。</p>
事務局	<p>基金は公金として取り扱うとなると、公平性を保つことが難しいと思います。他団体が管理する自由度の高いものであれば、良いかなと思います。</p>
松原委員	<p>補助金制度ではなく、協働で事業を進めていくことが大切。現状はお金を出すことだけが市の役割になってしまっているの、市の職員でも協働の重要性を認識してもらった主体的に関わる人材が必要。</p>
佐藤副委員長	<p>市の財政状況がひっ迫している中で行政に頼り切りは難しい。人材を育てていくことも大事だと思っています。</p>
事務局	<p>企業の方が市と接点を持ちたがっているというふうなお話を聞いたことがあります。今だと行政とNPO、地域コミュニティまたは企業など、ある程度話し合う構図が決まってしまうように思います。もう少し自由発想的なものもあっても良いのかなと思います。業務外で話し合いの場に積極的に出向いていけるような職員が育ってくるといいなと個人的に思います。</p> <p>以前は60歳で地域デビューしていたものが、今では70歳で地域デビューするような時代になりました。そういう意味ではNPOやコミュニティ組織においても人材は不足しています。地域活動においても、従来通りの活動を継続していくことは困難なので、活動を絞って特化してやっていく必要があるのかなと思います。</p>
松田委員	<p>私が若いころは、講座があつてそれに参加し、気の合う仲間任意団体を作って活動してきた。今は共働きも増え、労働年齢も伸びたことで講座等に参加する時間もない。講座はあっても良いと思うが、どれだけの人が参加してくれるかわからない。</p>
松原委員	<p>人材の話ですが、今の世の中は資本主義であるので、若い人たちはお金を稼ぐ時間に追われてしまい、市民活動なんてやる時間がないということが常識になっている。資本主義でなければ、もう少し豊かな暮らしができ、むしろ市民活動をメインにして、他の時間でちょっと稼ぐ位の生活ができるはず。ただ、現状はそうではないので市民活動に参加してくれる人は減っていく前提で議論をしていかなければならない。</p>
大西委員	<p>協働事業提案制度で成果を重視するのであれば、提案自体の的がぼけているような気がする。成果をあげるためには、何が必要なのか提案団体ともっと擦り合わせをしていく必要がある。</p>

<p>根橋委員長</p>	<p>龍ヶ崎市は、市民活動日本一というスローガンを掲げていると聞きます。いろいろな手法で市民活動を支援していると思います。その中で市民が市と協働したいといったときにこの委員会で審査をしています。</p> <p>市民活動の多くは趣味やサークル的な活動だと思いますが、ここに上がってくるのは地域の課題を解決するために行政と一緒にやりたいというようなものが上がってきます。去年の調査をした際に、市民活動団体側では地域課題を解決するだけの力がないという印象でした。このような団体が課題解決型に移行したときに、これだけ矛盾した世の中であるにもかかわらず、課題の探し方が難しい。SDGsなど身近にある課題を発見することが大事ということと呼びかけることが大事だと思います。2年前に竹灯籠の提案をもらった時に、初めてこの街に竹藪の問題があるということを知りました。</p> <p>次回も議題終了後にこのような意見交換の場を設けていただければと思います。</p> <p>次回の委員会では、提言書（案）について、ご協議をいただきます。開催日時は、8月17日（火）午後2時から、場所は同じ5階全員協議会室にて行います。</p> <p>また、今回の委員報酬につきましては8月13日（金）振り込み予定となっております。開催通知及び振り込み通知は配付いたしませんので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上で、委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。</p>
	<p>上記については、令和3年8月4日に開催した、令和3年度第2回龍ヶ崎市市民協働推進委員会の会議録に相違ない事を確認したので署名する。</p> <p>令和 年 月 日</p> <p>会議録署名人 _____</p> <p>会議録署名人 _____</p>

